



↑交通安全講話の様子

6/6 沢木さわやかクラブ「交通安全講話」 交通安全への意識を高める

沢木住民センターで、沢木さわやかクラブにおける『交通安全講話』が開催され、クラブ員 8 名が参加しました。講話では、紋別警察署興部警察庁舎の西岡啓所長と役場職員が、自転車の交通違反および手信号について説明したほか、交通指導員会の三浦健一会長の進行のもと、交通安全啓発に関する DVD の上映が行われました。最後に、役場地域防災室が用意した反射リストバンドが参加者に配布され、交通安全への意識向上を呼びかけました。



↑スマホ教室の様子

5/15 やさしいスマホ教室 スマホ、もっと身近に

幌内歴史と生活の家で、高齢者に向けた『やさしいスマホ教室』が実施され、12 名が参加しました。これは、町内に携帯ショップが無かったり、操作方法について聞きたいが聞く先が無いという現状を踏まえ、スマートフォンの使い方について DX 推進監が講師になり、学びたい団体を対象に行っている取り組みです。関心のある団体は、DX 推進室（☎ 0158 - 84 - 2121）までご連絡ください。※詳細は、本紙 13 ページをご覧ください。

6/9 沢木郵便局オンライン診療 受診者の負担を減らす

沢木郵便局で、広域紋別病院によるオンライン診療が始まりました。この取り組みは、医療資源に限られた地域において、通院が困難な方や冬季の移動に不安を抱える方の負担軽減を目的としたものです。利用者は、郵便局内に設置された機器を通じて医師の診察を受けることができ、現地では診療看護師が触診や採血などを行います。診療費は郵便局で支払い、処方薬は後日郵送されます。今後は月 1 回、予約制での実施を予定しています。



↑オンライン診療の様子

5/30 ホタテ等無料配布 旬の恵みをご家庭に

今年も雄武漁業協同組合による、ホタテの無料配布が実施されました。配布当日は早朝から漁協施設において、組合員や町職員が協力しながら袋詰め作業を行い、1 世帯あたり 4kg のホタテと昆布しょうゆが各自治会を通じて配布されました。また、北オホーツク農業協同組合からは、ホタテとともに味わってもらおうとバターとチーズも無料配布され、町民からは感謝や喜びの声が多く寄せられました。



↑無料配布の様子



↑試食祭の様子

6/11 雄武高校特産品開発プロジェクト【試食祭】 地元の逸品に青春をかける

雄武高校特産品開発プロジェクトによる試食祭が、道の駅おうむの多目的ホールで開催されました。提供されたのは、雄武産の牛肉とチーズ、美幌産の野菜を使用したカレー味の肉まん『おうむまん』と、雄武産の韃靼蕎麦粉を 100% 使用したクッキー『だったんどシャ』です。いずれも雄高生がアイデアを出し、開発した新しいご当地グルメです。会場には、町内外から多くの方が訪れ、雄高生の力作を堪能しました。



↑かけっこ教室の様子

5/31 かけっこ教室 走ることが好きになる

雄武高校グラウンドで、雄武高校陸上競技部顧問の石田白文先生を講師に『かけっこ教室』が開催され、町内の児童 24 名が参加しました。スポーツ推進委員や雄武高校・雄武中学校の陸上競技部員らのサポートのもと、児童たちは体の使い方を学び、ジャベリックスローや 50 メートル走に挑戦。記録測定では、より良い記録を目指して全力で取り組む姿が見られ、最後には、各参加者にその日の最高記録を記した記録証が手渡されました。

6/14 雄武町防犯協会パークゴルフ大会 交流と深める防犯意識

宮の森公園パークゴルフ場で、『雄武町防犯協会パークゴルフ大会』が開催され、町民 39 名と警察関係者 7 名が参加しました。開会にあたり、紋別警察署興部警察庁舎の西岡啓所長から、SNS を利用した詐欺被害について注意を呼びかけ、参加者は防犯意識を高めました。競技では、それぞれがベストスコアを目指して競い合い、各所で好プレーが繰り広げられていました。



↑パークゴルフ大会の様子

6/1 地方創生伴走支援制度 現地視察を実施

中央省庁職員が中小規模自治体とチームを組み、地域課題の把握から施策立案までを支援する「地方創生伴走支援制度」に、雄武町が選定されています。

この日、本町を担当する伴走支援チームの支援官 3 名と北海道地域創生局などの職員が来町し、町内の主要施設を視察しました。今後は定期的なミーティングを通じ、行政課題の整理と解決に向けた施策立案を進めていきます。



↑（左から）西本氏、大矢氏、高橋町長、猪鼻氏